

ヤサイゾウムシ *Listroderes costirostris* SCHONHERR

【 加害の特徴 】

我が国では昭和 15 年（1940）に発見された外国からの侵入害虫である。

成虫は秋に発生し、翌春までの間に本畑初期の作物を、葉縁から半円形にかじり取るように食害する。秋から春にかけて産卵、ふ化が行われるため、タバコの植え付け時には大小さまざまな幼虫がいて苗を加害する。幼虫はとくに心葉を好み、生長点にまで潜入するため被害株は奇形葉となり、生育も著しく阻害される。

タバコのほか、高菜、白菜などのアブラナ科野菜類、ハウレンソウ、ニンジン、雑草ではオオバコ、ヒメジオン、オオアレチノギク、ヒメムカシヨモギなどに発生が多く、34 科 178 種以上の植物を食することが知られている。

【 経過習性 】

年 1 回の発生で、成虫、卵および幼虫で冬を越す。成虫は夏の間を雑草中や土中で休眠して過ごし、秋になると活動を開始する。夜行性で昼間は土中に潜み、夕刻から行動する。

雄はこれまでに発見された例がなく、雌のみで単性生殖を営む。雌は寄主植物の近くの地表や土中の堆肥屑などに 1 粒ずつ産卵するが、気温が 10℃前後になる秋と春にとくに盛んである。成虫は 1 年以上生存し、1 日に数粒から十数粒の卵を 100 日以上にわたって産むので、1 雌の総産卵数は 1,000 粒前後となる。一定条件下での卵期間は、5℃で 100 日以上、10℃で約 35 日、幼虫期間は、10℃で 110 日以上、15℃で約 50 日を要する。蛹期間は 10～15 日である。

一般の昆虫とは逆に低温期に活動し、単性生殖する珍しい甲虫である。

【 防除法 】

苗床および畑周辺の清掃：タバコの苗床や畑の周辺にある野菜類や雑草が発生源となるので、不要な植物は秋までに取り除く。

取り除くことが困難な場合は、タバコ植え付け時までに薬剤散布を実施する。

タバコを加害するゾウムシ科の害虫にはこのほか、サビヒョウタンゾウムシ *Scepticus griceus* (Roelofs)、クワヒョウタンゾウムシ *S. insularis* ROELOFS、スナムグリヒョウタンゾウムシ *S. tigrinus* ROELOFS などがいるが、防除法はヤサイゾウムシに準じて行う。